

平成29年度鳥取県環境学術研究等振興事業

テーマ 漁業生産現場における創意工夫の発掘と、生産者の顔の見える水産物地域ブランド創出に関する研究

研究者 太田 太郎(公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター)

概要

水産物は、その複雑な流通形態が故に、消費者に生産過程(漁場や漁獲方法など)を伝える仕組みがほとんど確立されていない。本課題では、鳥取県中部地域で水揚げされる水産物を対象とし、消費者向けパンフレットを作成することによって‘生産者の顔の見える地域ブランド’の創出を試み、さらに、その効果について、アンケート調査等を実施し評価を試みる。

研究内容

1 消費者向けパンフレット作成のための生産現場の調査

平成28年度に決定したパンフレットの内容(月ごとに魚種を紹介)と採用する魚種(下表)にもとづき、平成29年度は5月、6月、7月の採用魚種の生産現場調査を実施した。

1月: サワラ(酒津)	2月: ウマヅラハギ(賀露)	3月: コウイカ(賀露)	4月: バイ(賀露)
5月: アジ(夏泊)	6月: トビウオ(青谷)	7月: イワガキ(福部)	8月: 白いか(賀露)
9月: シイラ(浜村)	10月: カレイ、ハタハタ(賀露)	11月: マツバガニ(賀露)	12月: ハマチ(泊)

調査では、漁労作業の写真撮影や対象となる漁業者のヒアリング調査を行ったほか、必要に応じ陸上での調査(水揚げ現場(市場)、地域イベント、直販店等)も実施した。



写真: とびうおまき網漁業の様子



写真: 定置網漁業の様子

2 パンフレットの編集

パンフレットに必要な素材を収集後、原案を作成の上、編集作業の方針について関係者(特に漁業協同組合職員等)と協議し、より読者である消費者に親しみやすい内容とする方向で編集作業を進めることとし、以降はイラスト作成を中心とした編集作業を進めた。最終的にパンフレットの内容を関係者と協議の上で確定し、3月に「因幡の海からの贈り物 漁師のおすすめ ‘お魚暦(おさかなごよみ)’」を2,000部印刷し、関係者(漁業関係者や行政関係者)へ配布した。



図: パンフレット(お魚暦)の一部

3 今後の展開(次年度以降の計画)

今年度に作成したパンフレットを印刷し、特に水産物流通関係者(仲買、小売店)等へ配布し、消費者の反応等についてインタビューする。また、消費者向けアンケートについては、今年度実施した予備調査(平成29年に実施した鳥取かにフェスタでのアンケート)の結果に基づき、質問内容を吟味し、イベント、直売店等でパンフレットの配布と合わせ、調査を行う予定としている。

応用分野

水産物消費拡大、漁業学

連絡先

公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特命准教授 太田太郎
連絡先: ✉ oota-t@kankyo-u.ac.jp ☎0857-32-9105